

## ◆体験林業

地域の小中学生や各種団体を対象に、国有林をフィールドとして植樹や下草刈り、間伐<sup>※1</sup>等の体験林業を実施しています。体験林業を通じて、林業という仕事への理解を深めるほか、人間と森林のかかわりの歴史の深さや森林の大切さについて実感を持って学ぶことができます。また、これらの活動は、自然の中で仲間と助け合う心を育て、積極性や行動力を養うことにもつながります。

### 事例① 間伐体験(北茨城市立華川中学校) ★H24年度

北茨城市立華川中学校の第1学年の生徒約40名を対象に、「森林愛護活動」の一環として、北茨城市内の国有林で間伐体験を実施しました。

作業指導を行った署職員からヒノキやスギの特徴を教わったり、切り倒した木の年輪を数えて樹齢を推定したり、コースターを作って匂いをかいだりしながら、各自が林業や森林に対する知識を深めました。



### 事例② 間伐体験(連合茨城青年委員会) ★H24年度

連合茨城青年委員約50名を対象に、「2012環境フェスタ」の一環として東茨城郡城里町の国有林で間伐体験を実施しました。

作業開始からまもなく、あちこちで木を倒す音と歓声が上がリ、林内は新鮮なヒノキの香りでいっぱいになりました。家でこの香りを楽しみたいと、伐倒したヒノキを輪切りにして家に持ち帰る参加者も多く見られました。



### 事例③ 植樹体験(株式会社日立パワーソリューションズ) ★H24年度

茨城県高萩市にある(株)日立パワーソリューションズの法人の森林(もり)<sup>※2</sup>において、社員とその家族を含む約200名が、鍬(くわ)を使いスギやコナラなどの4種類の苗木を植えつける植樹体験を行いました。

その他にも、「森林のはたらき」「国際森林年」「無花粉スギ」の3つのテーマについて学んだり、子どもたちはシジュウカラ用の巣箱を木にかける作業を行ったりしました。



※1 間伐とは、苗木の植栽後、木の成長にともなって森林内が混み合ってくるため、一部の木を抜き刈りして森林内の木の本数を調整し、個々の木が健全に育つようにするために行う作業のことです。

※2 「法人の森林」とは、社会奉仕または社会貢献として森林整備等を行おうとする法人等と国がともに森林を造成・育成し、伐採後の収益を一定の割合で分け合う制度(分収林制度)で、既存の森林の整備を内容とする「分収育林」と、造林により新たな森林を造成し収益を分かち合う「分収造林」の2つがあります。